

## 巻 頭 言



さいたま市長 清水 勇人

### 「新たなさいたま市の創造」へ

はじめに、新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになった方々に心からご冥福をお祈りするとともに、現在も入院し、治療を受けていらっしゃる方々にお見舞いを申し上げます。また、最前線で立ち向かっている医療従事者の皆様や、社会生活を支える多くの皆様に対して心より感謝を申し上げます。

このたびの災禍は、これまで当たり前と思えていた日常生活や、日々の社会経済活動、あるいは自由で活発な人や物の往来が、いかに貴重で尊いものであるのか、改めて気づくきっかけとなりました。このような困難な状況の中でも、かねてから交流のある都市とオンラインで会談を行うなど、新たな交流の場を模索し、温かい交流が継続できていること、また、必要物資の支援など、心配りをいただいていることに大変感謝しております。

さまざまな制限のもとで、当市が今年度に展開を予定していた国際交流事業やインバウンド施策は、見直しを余儀なくされています。また、経済活動へのダメージも計り知れません。今は、一日も早く感染症の拡大が終息することを願い、感染拡大防止に努めるとともに、これまでストップしていた人の交流の再開・観光需要の喚起に全力で取り組んでまいります。

さて、現在さいたま市の外国人市民数は2万6千人を超え、毎年増加しています。そして来年は、さいたま市がサッカーとバスケットボールの会場となる「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」が開催されます。これまで以上に海外からの多くの観光客がさいたま市を訪れることになり、多くの国や地域の方とふれあう機会が増え、市民の交流形態もより一層多様化し、国際交流や国際理解、及び多文化共生社会の実現に向けた取り組みの必要性も高まります。そのため、さいたま市では、海外から来訪される方の利便性を向上するための環境整備に取り組んでおります。

特に情報の多言語化の充実は、同時に多文化共生社会の推進に繋がる取り組みでもあることから、今後も積極的に進めるとともに、さいたま市を世界に発信し、住みやすいまち、訪れやすいまちを目指して、さいたま市の国際化を推進してまいりたいと考えております。

そして、2021年のその先、「新たなさいたま市の創造」という次のステージへと飛躍するべく、より一層の決意と情熱をもって市政を前に進めてまいります。